



☆ 本格的な春はまだかな？

今年は、春と冬を行ったり来たりしている気がします。暖かな日が桜を満開にしたかと思ったら、冷たい雨！ お花見に行きたくても日を選ぶのが難しかったのではないのでしょうか。

さて、自然は思い通りにはなりません、絵本の世界でもいろいろ思いがけないことが起こります。そんな楽しい絵本の世界へどうぞ一緒に！！



春は心もわくわくするね！



絵本・はるかぜさんといっしょ

にしまきかやこ作・絵 こぐま社

ある日、こんちゃんが庭の桜の木の下で絵本を読んでいると、春風が吹いてきて花びらを飛ばします。

「花びらどこまでとばすの」

「さあ、どこまでかな」

こんちゃんが春風の後をついていくと、パン屋さん、花屋さん、魚屋さん…とみんなついてきて…。素朴な絵に明るい色彩の楽しい絵本。散歩がしたくなりますよ。

絵本・おかえし

村山桂子文 織茂恭子絵 福音館書店

となりに引っ越してきたきつねのおかあさんにいちごをもらったたぬきのおかあさんは、早速おかえしにたけのこを持っていきます。ところが、きつねのおかあさんは、おかえしのおかえしを持ってきて…

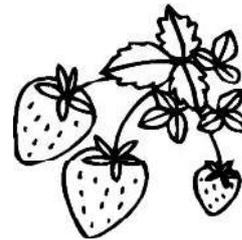
おかえしをしあう繰り返しのおもしろさと、最後はどうなっちゃうの？というドキドキ感が子どもたちを夢中にさせる一冊です。

絵本・ジルベルトとかぜ

マリー・ホール・エッツ作 たなべいすず訳 富山房

ジルベルトという男の子と風は仲良しです。風船で遊んだり、しゃぼん玉で遊んだり。でも、風はたまにジルベルトにいたずらもします。

この絵本は、そんなジルベルトと風の間をグレイの背景に、白、黒、茶の三色で描いた絵本です。地味ですが、自然との関わりを教えてください。



絵本・野の花えほん 春と夏の花

前田まゆに作 あすなる書房

散歩をしていると、いろいろな所でいろいろな花をみかけます。道ばたに咲くすみれやおおいぬのふぐり、空き地に咲いたんぽぽ。

この本は、そんな花々を観察するポイントや名前由来、食べ方や遊び方を、かわいいイラストとわかりやすい文章で教えてください。

あなたも、この本を小脇にかかえて、外に出てみませんか？

絵本・三びきのやぎのがらがらどん

マーシャ・ブラウン絵 瀬田貞二訳 福音館書店

シンプルなお話、迫力のある絵が魅力です。

大・中・小の三びきのやぎ、名前はみんな、がらがらどん。山へ太りにいくために、トロルのいる橋を渡ります。小さいの、中くらいのは何とか橋を渡り、そして…。最後に渡った大きなやぎとトロルの対決が痛快です！



★ おはなし会のお知らせ

“すばなしの会みみずく”では、すばなしと絵本の読み聞かせを、毎月第3土曜日に行っています。ぜひ、楽しいおはなしを聞きに来てください！

次回は
時間
場所

5月15日(土)、 6月19日(土)
午後3:00~3:30
水戸市立西部図書館 お話し会のへや



☆ とうとう入梅…

今年も入梅しました。なにやら例年より六日くらい遅いそうで、外はしとしと、中はじめじめで、いやな季節です。

でも、そんなことには負けてはいられません。気分だけでも爽快に、楽しくしたいものですね。

そこで、今回は、雨を楽しむ本、家の中の楽しむ本を集めてみました。雨に日だって、外に出てみませんか？ 楽しい発見があるかもしれませんよ！



雨だけと…



絵本・あめ あめ あれれ

梅田俊作・梅田桂子作、童心社

「あめ あめ あれれ？ うたっているよ」
雨の日の散歩はとても楽しい。カエルにクラゲ、ペンギンまで飛び出してきて……。

躍動感あふれる線の水彩絵が、リズムカルな文章を引き立てた楽しい絵本。雨の日、家にこもっているのが、もったいなくなりますよ。

絵本・あめふり

さとうわかき作・絵、福音館書店(ぼぼぼあちゃんのおはなし)

ずっとずっと雨が続いて、こいぬもこねこも、ぼぼぼあちゃんも、外に出たくてたまりません。そこで、「たまにはからっとしたお天気におくれ」。すると、雲の中から「やあーだよ。」という声が。怒ったぼぼぼあちゃんは……。

楽しいぼぼぼあちゃんのシリーズの1冊。ぼあちゃんはすごくよい方法をおもいつきますよ。

絵本・ふたりは ともだち

アーノルド・ローベル作、三木卓訳、文化出版局

仲よしの友だち、がまくんとかえるくんの小さなお話が五つ入った本です。

単純なストーリーの中に、二人の厚い友情とちょっとしたユーモアが織り込まれています。セピアとモスグリーンを基調にした絵もほのぼのとした雰囲気盛り上げてくれる、優しい絵本です。続編も併せてどうぞ。

絵本・こぐまちゃんのどろあそび

若山憲作、こぐま社(こぐまちゃんえほん)

こぐまちゃんはお母さんに買ってもらったスコップで穴を掘ったり、おだんごを作ったり。そこに、しろくまちゃんも加わって……。

子どもの遊びはどんどんエスカレートしていくもの。二人の穴も、山もどんどん大きくなっていきますよ。

単純化された原色の絵と、繰り返しのあるリズムカルな文章の楽しい絵本です。



絵本・うちが いっけん あったとさ

クラウス文、センダック絵、渡辺茂男訳、岩波書店

「うちが いっけん あったとさ——」

そこは、とてもすてきな家。ベッドは飛びはねるもの、壁は落書きするためにあり、死んだネズミを招待しても怒られない。

歌いたくなるような文章と、表情豊かな絵の楽しい絵本。

「ダメ」と言われることを何でもしていい家。そんな家があったらいいですね。

☆ おはなし会のお知らせ

“すばなしの会みみずく”では、すばなしと絵本の読み聞かせを、毎月第3土曜日に行っています。ぜひ、楽しいおはなしを聞きに来てください！

次回は
時間
場所

7月17日(土)、8月21日(土)
午後3:00~3:30
西部図書館 お話し会のへや



☆ 夏休みも目の前！

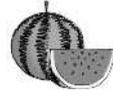
夏休みまで後数日となりました。休みになったら、何をしようか…、などと心もそわそわ。でも、こんなに長いお休みはそんなにはありませんよね。これを活用しない手はありません。

そこで、たまには子どもたちと一緒に読書などはいかがでしょうか。

子どもたちと一緒に本を読んだり、本を使った遊んだり、いろいろな発見があるかもしれません



夏、夏、夏！



絵本・ **アーサーのくまちゃん** リリアン・ホーバン作、木島始訳、文化出版局

ある日、アーサーとバイオレットの兄妹は、古くなったおもちゃを大売出しにかけました。その中でひとつだけ、アーサーが売らないと決めた大切なくまちゃんをバイオレットが買いたいと言いました。仕方なく売ったアーサーですが、やっぱり淋しくて……。

温かい結末は、図書館でしか読めませんよ。

絵本・ **すいかのたね** さとうわきこ作・絵、福音館書店(ぼぼばあちゃんのおはなし)

ある日、ぼぼばあちゃんがスイカの種をまきました。何を埋めたんだろう？ と、こねこ、こいぬ、うさぎ、きつねと次から次へとやってきては、「なあんだ、つまらない ぐろい たねだ」と言っでは、埋め戻していきます。それに怒った種は、プスンとはじけて、ピューッと芽を出し、ぐんぐん伸びて、あっという間に庭中から家の中までつるだらけ。ぼんぼんスイカがなって、さあ大変！

楽しいぼぼばあちゃんのシリーズの1冊。どんどん伸びていくスイカが圧巻ですよ。

絵本・ **へそもち** 渡辺茂男作、赤羽末吉絵、福音館書店(こどものとも傑作集)

高い塔の上には、必ず雷よけに「ヤリ」のように避雷針が立っています。それは、悪さをする「かみなり」を捕まえるためなのですが……。

昔話の雰囲気も充分楽しめ、縦長の画面が、かみなりの迫りもたっぷりと楽しませてくれます。

かみなりが、どうしておへそを好きなのかは、読んでみてのお楽しみ！

絵本・ **しいたかがりやのちいさな魚のお話** エルサ・ベスコフ作・絵、石井登志子訳、徳間書店

ちいさい魚のスイスイは、水の上の世界を知りたいと思っていました。ところが、ある日、小さな男の子トーマスに釣り上げられて、ガラスの水槽に入れられてしまいます。そこで、スイスイを可愛がっていた3匹の魚たちはスイスイを助けに行くこ

ちいさなスイスイ、小さな男の子、3匹の魚たちの心情を、とてもきれいな、優しい絵で描いてい



科学読物・ **今森光彦 昆虫記** 今森光彦著、福音館書店

琵琶湖の近くの狭い範囲をフィールドとして、作者が12年間観察してきたものをまとめた1冊です。カレンダー式に構成されたこの本では、身の回りにいる虫たちの姿を、季節の移ろいとともに見ることができます。人間の一方的な視点ではなく、もっといろいろな角度から物事を見る大切さを教えてくれます。

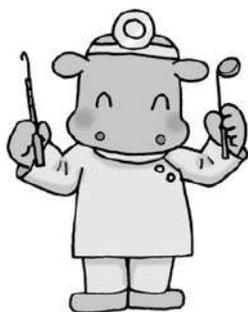


絵本・ **コッケ モーモー!**

ジュリエット・ダラス=コンテ文、アリソン・パーレット絵、
たなかあきこ訳、徳間書店

夜が明けたので、オンドリは勢いよく鳴きました。「コッケ モーモー！」あれ？ もう一度鳴いてみますが、何回鳴いても違う泣き声ばかりです。どうしたの？ 忘れちゃったの？ オンドリは、すっかり悲しくなってしまう。ところがその晩に……。

はっきりした色と絵の楽しい絵本です。オンドリと一緒に「コッケ モーモー！」と大きな声で読むと楽しさ倍増です。



絵本・ **ぼしん! ぼん! どかん!**

ピーター・スピア文・絵、渡辺茂男訳、童話館出版

リンゴを切ると「さくり」、おなべは「ぐつぐつ」、お皿を割ったら「がちゃん」、馬は「ばかばか」、大砲は「どかん」、雷は「ごろごろ」、自動車は「ぶるるうん」、いろいろな動きとその音がたくさん集まった絵本です。

音ときれいな絵がとてもよくあって、声に出して読んでみると楽しい絵本です。

絵本・ **まよなかのだいどころ**

モーリス・センダック作、神宮輝夫訳、富山房

『かいじゅうたちのいるところ』でご存知のセンダックが、真夜中の台所を舞台に不思議な世界を描き出します。

台所といっても、背景は摩天楼のよう、そして、ビルはおいしそうな箱やビン！ 天の川のミルクで作られたケーキを朝食に食べられる！なんて考えたら、夜、眠るのだって楽しみですね！

絵本・ **歯いしゃのチュー先生**

ウィリアム・スタイク文・絵、うつみまお訳、評論社

ネズミのチュー先生は歯医者さん。いつも患者さんがいっぱいです。

ある日、チュー先生は、歯痛のキツネをみることになってしまいます。『ネコや、その他のきけん動物はおことわり』だったのに。だってネズミですからね。食べられたら大変！ どうなるのでしょうか。

チュー先生の機転のきいたお話を、楽しい絵でどうぞ！

絵本・ **ものぐせトミー**

ペーン・テュポア文・絵、松岡享子訳、岩波書店

朝、体を起こすところからシャワーに着替え、ごはんを歯磨きまで、ゼーンぶ機械がやってくれ、トミーはそんな毎日を送っています。夜に長い階段を上る以外、することはありません。ところが、ある日、電気がストップしてしまって大変なことに……！

いろいろと考えさせられる部分はありますが、楽しく笑って読んでください。



★ **おはなし会のお知らせ**

“すばなしの会みみずく”では、すばなしと絵本の読み聞かせを、毎月第3土曜日に行っています。ぜひ、楽しいおはなしを聞きに来てください！

次回は
時間
場所

8月21日(土)、9月18日(土)、10月16日(土)
午後3:00~3:30
西部図書館 お話し会のへや



☆ やっと秋？

今年はなかなか秋が深まらず、暑い日が続いていましたが、やっと秋本番といったところでしょうか？

そこで、秋を満喫するために、いろいろな秋の本を集めてみました。秋の夜長、お子様と一緒に読書をお楽しみください。

今回は、科学の本も入れてみましたので、身近な場所に目を向けてみるのもよろしいのでは。



秋本番！



絵本・ つきのぼうや

イブ・オルセン作・絵、山内清子訳、福音館書店

ある夜、お月さまが下を見ると、池の中にもう一人お月さまがいます。それが気になって仕方ないお月さまは、 つきのぼうやに連れてきてくれるように頼みます。

さて、そこで、つきのぼうやが、水の中から連れてきたお月さまは……。

細い縦長の画面は効果的で、とてもユーモラスに描かれた絵本です。

絵本・ つきよ

長新太作、教育画劇

たぬきがうちに帰る途中でみつけたお月さまは、すうっとすべりおりてくると、池に浮かびました。びっくりしておなかをきゅうつつかんだたぬきの前で、お月さまはゆったり楽しいひと時を過ごします。

その池がどこにあるのかは、「世界一の探検家でも見つけられないでしょう」ね。

絵本・ ふわふわくんとアルフレッド

ドロシー・マリノ文・絵、石井桃子訳、岩波書店
(岩波の子どもの本)

「くんちゃん」のシリーズはご存知のことでしょう。同じ作者のこの絵本は、あかちゃんの時から一緒にいたくまと、新しくきたとらのお話です。新しくできた友達に夢中になるのは誰だって同じ。だけど……。

絵本ならではの不思議で自然な展開と、共感してしまう楽しさを味わってください。

科学絵本・ りんごとちょう

イエラ・マリ、エンソ・マリ作、ほるぷ出版

りんごの中に小さな卵がひとつ。卵はやがて幼虫になり、りんごの中で成長していきます。その幼虫は、皮を破って外に出て、さなぎになり、チョウになり、またりんごの花に卵を産みつけます。

自然の摂理を、文字を使わず、無駄のない絵だけで説明した絵本。同じ作者の『あかいふうせん』も一緒にどうぞ。



科学読物・ キノコの世界

伊沢正名著、あかね書房(科学のアルバム)

茨城出身の著者が撮ったキノコの写真の数々は、美しいものでいっぱいです。そんな写真を見ながらページをめくるとキノコの知識が自然に身につきます。「地球の掃除屋さん」キノコの不思議でたくましい性質を学ぶのにぴったりです。まずは身近なキノコから観察してみませんか？



☆ おはなし会のお知らせ

“すばなしの会みみずく”では、すばなしと絵本の読み聞かせを、毎月第3土曜日に行っています。ぜひ、楽しいおはなしを聞きに来てください！

次回は
時間
場所

11月20日(土)、12月18日(土)
午後3:00~3:30
西部図書館 お話し会のへや



☆ メリークリスマス & ハッピー ニューイヤー

今年も押し詰まってきました。クリスマス控えてわくわくしたり、来る年のことを考えて、何かと気ぜわしかったり……。楽しいことがたくさんひかえています。

そこで、今回は、楽しいクリスマスの本と、来年の干支・うさぎの本を集めてみました。暮れで忙しいばかりではなく、子どもたちと一緒に一休みしてみませんか。

それでは、まずは、クリスマスの本からお楽しみください。



メリークリスマス!



絵本・ぐりとぐらのおきゃくさま

中川李枝子文、山脇百合子絵、福音館書店

(こどものとも傑作集)

のねずみのぐりとぐらが、大きな足跡をたどっていくと、着いたところは、なんと、自分たちの家。中にはだれかお客さまがいるようです。あちこち探していると……。

リズムカルな文章と、のびのびとした明るい絵の楽しい絵本。人気のぐりとぐらのシリーズの一冊です。

絵本・まりーちゃんのくりすます

ワランソワース文・絵、与田準一訳、岩波書店

(岩波の子どもの本)

もうすぐクリスマスです。まりーちゃんはサンタクロースから何がもらえるかたのしみで仕方ありません。でも、こひつじのばたぼんはプレゼントをもらえないと思っています。そんなばたぼんのために、まりーちゃんが、プレゼントを入れてもらうためのくつを買ってあげると……。

歌うように繰り返される文章と、明るい色調の素朴な絵が安心感を与えてくれる、心温まる絵本です。

絵本・クリスマスのまえのぼん

クレメント・ムア詩、ターシャ・チューダー絵、

中村妙子訳、偕成社

クリスマスの前の晩、とうさんの見たものは……。

サンタクロースのイメージを定着させたといわれる19世紀の詩に、美しい絵がつけられました。

細部まで描きこまれた絵は、サンタクロースの表情までも豊かで、クリスマスの楽しい気分を盛り上げてくれます。じっくり見たくなる絵本です。

読物・山のクリスマス

L. ベーメルマンズ文・絵、光義夏弥訳、岩波書店

(岩波の子どもの本)

町の子ハンシは、クリスマスのお休みに、山に住むハーマンおじさんの家へ初めてのひとり旅に。いとこのリーザールや犬のワルドルと一緒に過ごした冬の山での暮らしはとても楽しくて……。

チロルの山の暮らしが、ゆったりと語られた、素朴でほほえましいお話です。少し大きい子に。



科学読物・クリスマス・クリスマス

角野栄子作、福音館書店(たくさんのふしぎ傑作集)

クリスマスにツリーを飾るのはなぜ? プレゼントをくれるサンタクロースって、どんな人? クリスマスにケーキを食べるのはどうして? そんなたくさんのなぜ? を、著者が訪ねた各国のクリスマスとともにお話してくれます。

読者に語りかけるような文章は読みやすく、写真もいっぱい楽しい本です。

次回は
時間
場所

1月15日(土)、2月19日(土)

午後3:00~3:30

西部図書館 お話し会のへや



☆ 続いて、来年の干支・うさぎの本をどうぞ。



ハッピーニューイヤー!



絵本・ちいさなうさこちゃん

ディック・ブルーナ文・絵、石井桃子訳、福音館書店

大きな庭のかわいい家に、ふわふわさんとふわおくさんが住んでいました。ある晩、ふわおくさんのもとへ天使がやってきて、「じき赤ちゃんができますよ。」

そして、生まれてきたのがうさこちゃんです。

人気シリーズの第1作目。簡潔でリズムカルな文章と、原色で単純な絵は、子どもたちの心をひきつけます。

絵本・わたしのワンピース

西巻茅子文・絵、こぐま社

空から降ってきた1枚の真っ白な布で、うさぎはワンピースを縫いました。そのワンピースを着て散歩に出かけると、周りの景色にあわせてワンピースの柄が変わっていった……。

単純で伸びやかな線と、明るい色彩の絵とともに、リズムカルな話し言葉による文章も楽しい絵本です。

絵本・ピーターラビットのおはなし

ビアトリクス・ポター作・絵、石井桃子訳、福音館書店

ある日、いたずらっ子こうさぎのピーターは、お母さんの言うことをきかずにマクレガーさんの畑へ。おいしい野菜をおなかいっぱい食べたところまではよかったけれど……。

簡潔でユーモアあふれる文章と、丹念に描かれたやわらかい色調の絵は、登場する動物たちを愛情豊かに表現しています。

絵本・うさぎさん てつだってほしいの

山口ウエ文、センダック絵、小玉知子訳、富山房

おかあさんに誕生日のプレゼントをしたい女の子は、うさぎさんに手伝ってもらうことに。女の子とうさぎさんは、何がいいか一緒に探し回りますが、なかなか見つかりません。

単純な繰り返しの楽しい絵本。いつも読者を楽しませてくれるセンダックの不思議で美しい絵の世界も楽しめます。大人っぽい雰囲気とうさぎをお楽しみください。



絵本・うさぎのみみはなぜながい

テウアンテペックの昔話、北川民治文・絵、福音館書店

あるとき、いつも森の仲間たちにいじめられていたうさぎは、神さまに、もっと大きくして下さい、とお願いしました。神さまは、トラとワニとサルを連れてきたら願いをかなえてやろうと答えてくれますが……。

メキシコの民話を絵本にした1冊。様式化した絵は、強い印象を与え、不思議な魅力があります。

★ おはなし会のお知らせ

“すばなしの会みみずく”では、すばなしと絵本の読み聞かせを、毎月第3土曜日に行っています。ぜひ、楽しいおはなしを聞きに来てください!

次回は
時間
場所

1月15日(土)、2月19日(土)
午後3:00~3:30
西部図書館 お話し会のへや



☆ 寒～い冬です

今年是一段と寒いようですね。例年にないくらいの大雪の年のようで、テレビでも、ラジオでも雪の話題で持ちきりです。

そこで、今回はそんな寒さもふっとばすくらいの元気のある本を集めてみました。いくら寒くても、ほら、春はもうすぐそこまで来ていますよ。



絵本・ゆき

ユリ・シュルヴィッツ作、佐久間由美子訳、あすなろ書房

空が灰色になって、雪が一片舞い降りてきました。大人たちも、ラジオもテレビも雪は降らないというけれど、どんどん雪は降り積もり……。

灰色から明るい色調に変わってゆく絵が、雪の降る楽しさを教えてくれます。

雪は降らないと言った大人たちも、ユーモアたっぷりに描かれている、楽しい絵本です。

絵本・もりの おくの おちゃかいへ

宮越暁子作、偕成社

ある日、キッコちゃんは、お父さんが忘れていったケーキを、おばあちゃんのところへ届けることに。そこで、雪の上の足跡をたどっていったキッコちゃんは、動物たちのお茶会に迷い込んでしまい……。

モノクロの絵に明るい色彩が効果的に使われた絵本。どうぞ、お手にとってお楽しみください。

絵本・はなを くんくん

ルース・クラウド文、マーク・サイモント絵、木島始訳、福音館書店

雪が降り積もる森の中、動物たちはみんな眠っています。でも、野ねずみが鼻をくんくん、くまが鼻をくんくん、みんなが鼻をくんくん、くんくん。そして、走って行って見つけたものは……。

リズムカルな繰り返しの文章に、モノクロの絵。たった一輪の黄色い花が、春の訪れを語ってくれます。

絵本・きらきら

谷川俊太郎文、吉田六郎写真、アリス館

“きらきら”しているものは、なに？

“きらきら”しているものは、雪の結晶。そして、言葉。

自然が作り出した不思議で、美しい形の雪の結晶を、顕微鏡撮影した美しい写真に、谷川俊太郎が優しい詩をつけました。美しく、‘きらきら’した世界を、お子さまとお楽しみください。



絵本・くまの コールテンくん

ドン・フリーマン作、松岡享子訳、偕成社

くまのコールテンくんは、デパートのおもちゃ売場で、誰かが買いに来てくれるのを待っていました。でも、ボタンがひとつないだけで、誰も来てくれません。ところが、ある日、一人の女の子がやって来て……。

人形の形を借りて、幼い子どもの友達への思いを描いています。

★ おはなし会のお知らせ

“すばなしの会みみずく”では、すばなしと絵本の読み聞かせを、毎月第3土曜日に行っています。ぜひ、楽しいおはなしを聞きに来てください！

次回は **3月19日(土)**、**4月16日(土)**
時 間 **午後 3:00 ~ 3:30**
場 所 **西部図書館 お話し会のへや**